25 Leiden大学に所蔵されるレメリン解剖書2書と『和蘭全躯内外分合図』について

渡部　幹夫
順天堂大学医療看護学部

『解体新書』の出版（1774年）にさかのぼること約90年，本木良意により翻訳され写本として伝わるレムリン解剖書『阿蘭陀経絡筋脈臓腑図解』，およびその後『解体新書』出版の2年前に，鈴木宗云により出版された『和蘭全躯内外分合図』にはその製本の「つくり」を含めて興味深いものがある．Leiden大学のシーボルトコレクションに含まれる日本の少ない医学書関係資料に『和蘭全躯内外分合図』が含まれている．同大学の貴重書として所蔵されているレメリン解剖書の2書と同時に閲覧することができたので比較して報告する．

最も古いのが1613年のCatoptrum microcosmicumである．向き合った男女対面図，男性図，女性図が3枚の台紙となっている．男女対面図の間には妊婦の腹部があり，男性図，女性図の周りに諸臓器がおかれ印刷され複合されている．すべての図は表面から体内の深部へ層をめくるように同一の図に重ねて貼りこんである．ラテン語によるわずかな説明が図の下についているだけであり，マーブル厚紙の裏表の表紙が付いている．

1667年のPinax microcosmographicusはラテン語とオランダ語の詳細な解説を見開きのかたちで掲載しており，体表の脈管図が加わり図は4頁となっている．クロス張り厚紙の裏表の表紙が付いているが，その装丁は近代の修復のように思われる．1613年版に比較して図版で大きく異なるところは男女対面図で，それぞれが踏み台としている箱の肖像がなくなっていることと，男女対面する頭上にある神の図が変わっていることである．

明和9年（1772年）長崎　本木了意翻訳　周防　鈴木宗云撰次　雲行斎成美堂蔵版の『和蘭全躯内外分合図』および『験号』は層をめくる仕組みは同様であるが，やや異なる体裁で作られている．レメリン原書では全身像の周りにちりばめてある臓器のそれぞれが別の図としてつくられ編集してある．そのほかの上記2書と大きく異なることを挙げると次の点を挙げることができる．

1. 体表の脈管図がない．2. 男女対面図がない．3. 男女対面図のそれぞれが踏んでいる足台がない．4. 男女対面図の間の神の図がない．5. 原本では男性図，女性図がそれぞれ頭蓋骨を踏みつけているが分合図では不自然な脚の挙げ方で描かれている．6. 2書に見られる天使図，キリスト架刑図，蛇等の装飾図は全く描かれていない．

レメリン書の初版後，約70年には，鎖国下の日本で『阿蘭陀経絡筋脈臓腑図解』として和訳本が成立し写本として現在4書が残っているとされる．その後，約90年を経て，版本『和蘭全躯内外分合図』および『験号』として出版されたことも，人体解剖が一般的な医学修学でなかった時代においては大きな意味を持つと考える．また『和蘭全躯内外分合図』を，実際に手にしてみると制作に高度の技術が必要なものであることを実感する．『験号』の記述についても西洋医学の用語の一般化していない時代に本木了意が長崎の通詞としての役務の一部として翻訳したとされる以上の意味があったと思われる．

レメリン解剖書の出版は数次にわたり，広く学ばれたと考えられるが，CTやMRIにて人体の断面をみることのできるようになった現代医学の視点から見ると，立体である身体を断面としてヴァーチャル化してリアリティを持った書物としたことには興味深いものがある．レムリン書2書の図版の違いや，和訳写本と版本の図には上記以外にも興味あることがあり，比較して検討したい．

本研究は科学研究費助成研究　基盤研究（C）21590579「日本の医療史における社会の転換と医療技術の連続性の研究」の一部として行ったものです．